

## 平成30年度第1回 多摩市男女平等参画推進審議会 要点録

開催日時：平成30年5月29日（火曜）19:00～21:00

場 所：TAMA女性センター 活動交流室

出席委員：広岡守穂委員、木本喜美子委員、安藤慎次委員、飯島明美委員、神山直子委員、堤香苗委員、真野文恵委員（会長・副会長以下50音順）

欠席委員：神子島健委員

事務局：松尾部長、山本課長、西主査、丹羽

傍聴者：2名

（発言者凡例：◎会長、○委員、◇事務局）

### 1 開会

### 2 議 題

#### (1) 委嘱状の交付

委嘱状を各委員に交付した。

#### (2) くらしと文化部長挨拶

くらしと文化部長から挨拶を行った。

#### (3) 委員自己紹介（資料1<sup>1)</sup>）

各委員から自己紹介を行なった後、事務局職員が自己紹介を行なった。

#### (4) 会長及び副会長選出

会長に広岡守穂委員、副会長に木本喜美子委員を選出した。

#### (5) 会議運営に関する事項の確認について（資料2<sup>2)</sup>～資料3<sup>3)</sup>）

##### ※以下、広岡会長の議事進行

◇「多摩市男女平等参画推進審議会の運営に関する申し合わせ事項」、「傍聴者アンケート」について説明。傍聴者アンケートに寄せられた内容については、推進審議会へ情報提供する。

⇒委員了承

#### (6) 男女平等参画推進審議会の進め方について

（資料4<sup>4)</sup>、資料5<sup>5)</sup>、資料6<sup>6)</sup>、資料7<sup>7)</sup>、資料8<sup>8)</sup>）

1 資料1 多摩市男女平等参画推進審議会委員名簿

2 資料2 審議会の運営に関する申し合わせ事項

3 資料3 傍聴者アンケート

4 資料4 多摩市男女平等参画推進審議会について

5 資料5 多摩市女と男の平等参画を推進する条例及び施行規則

6 資料6 多摩市女と男がともに生きる行動計画（中間見直し版）

◇資料 4～資料 8 に基づき、審議会の所掌事項等について説明。今年度は主に行動計画の進捗状況に関する評価を行う。昨年度に引き続き、政策提言も実施していただければと思う。

#### (7) 今後の審議内容について意見交換（資料 9<sup>9</sup>、資料 10<sup>10</sup>）

◇資料 9～資料 10 に基づき、これまで審議会で重点的に審議したテーマや今期の審議会のスケジュールについて事務局から説明。

◎今日は初回なので、日ごろの生活実感や社会の流れを踏まえて、今、男女共同参画の分野でどのような問題に直面しているのか、市が今後取り組むべき課題はどのようなものかを自由にご議論いただければと思う。

まず私から口火を切らせていただくと、男女共同参画を推進する市民の熱意が見えにくくなっているという印象がある。LGBT を推進する学生の関心は非常に高いが、女性センターを利用する市民の意識や行動との間にはかなりの落差がある。今、自治体として力を入れていくべき課題は、女性センターの利用者を増やし、知名度を高めていくこと、地域の小中学校・高校・大学との連携を深めていくことが大切なのではないか。女性センターの利用が活発になるような取り組みが必要な時期に差し掛かっているように思われる。新しく市役所に関わろうとしてくださる方は少ない。「新しく入ってきた人が主役」という発想を市役所でもお持ちいただいて、地域社会で盛り上がっていくような姿勢が必要である。具体的なテーマで評価できるものがあれば、提言していければと思う。

○男女平等・男女共同参画に関する世の中の動きは早い。しかし中には、早く結婚して家庭に入ることを目指す学生もいる。また、多様性をまったく配慮しない発言をする 50 代・60 代の方も世の中には依然としてたくさんいる。多摩市はリベラルな市民が多いが、様々な世代の方に働きかけて、当然のことではなく、そういう考えもあつたねと認識を新たにしていただけるような働きかけ・情報発信がこの審議会としてできればと思っている。

○昨年度の審議会では LGBT 関連施策について教育の現場で推進していくことを提言した。その後の取り組みを審議会としてもフォローし、学校の授業等でどのように取り組むべきかなど、さらに掘り下げた提案ができればと思っている。

一方で、子育て中の女性や企業における女性の立場などは、何十年前とあまり変わっていない。このような日本社会の変わらない構図にも審議会としては着目していく必要があると考える。

○誰もがありのままの自分を、そしてありのままの他者を受容できる社会になれば、LGBT の方への理解を含め多様性社会の実現は難しいと感じている。学生時代は活躍していた女性も、社会に入ると男性が作った組織とルールの中に組み込まれてしまうというのが実情である。

○DV は社会問題の縮図という点がある。被害女性をもっと経済力を持つなど、リ

---

7 資料 7 多摩市女と男がともに生きる行動計画（中間見直し概要版）

8 資料 8 平成 28 年度多摩市女と男がともに生きる行動計画推進状況評価報告書

9 資料 9 審議会の審議事項一覧

10 資料 10 審議会のスケジュール（案）

スクを分散し複合的な生き方をすればいいのにと感じてしまう。将来の施策に向けて提言を行っていくというスタイルにも関心がある。

- 企業組織では男性の育児参加など多様な生き方に関する取組みが進められている。しかし組織を出ると、多様性の視点を持つことが難しい。多摩センターのお祭りなどオープンな場所で LGBT や多様性をアピールするブースなどができたらと考えている。
- 男女平等参画を意識して暮らしている市民は少ない。多くの市民に市の取組みを知ってもらうにはどうしたらいいかと考えている。男女ともに貧困で困難な状況にある人がいる点では悲観するが、性別に関わらず、自分が何をしたいか言える世の中になってきている点では希望も持っている。
- ◎今の社会で課題になっていることのうち、市役所で取り組むべきことを提言できるなら提言する、関連施策が機能しているかチェックできるならチェックする。そのような方法で進めていければと思う。

## **(8) その他**

### **【平成 30 年度第 2 回推進審議会の開催予定】**

(議題) 平成 29 年度推進状況評価について

(日時) 平成 30 年 6 月 26 日(火曜) 19 時～

(場所) TAMA 女性センター 活動交流室

### **【平成 30 年度第 3 回推進審議会の開催予定】**

(議題) 平成 29 年度推進状況評価について

(日時) 平成 30 年 7 月 13 日(金曜) 19 時～

(場所) TAMA 女性センター 活動交流室

## **8 閉会**